

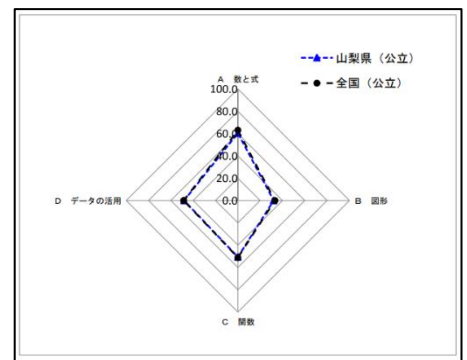
# 全国学力・学習状況調査 中学校 数学

## 集計結果

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
<b>山梨県 (公立)</b>	<b>5,732</b>	<b>7.5 / 15</b>	<b>50</b>	<b>7.0</b>	<b>3.8</b>
全国 (公立)	893,114	7.6 / 15	51.0	8.0	3.9

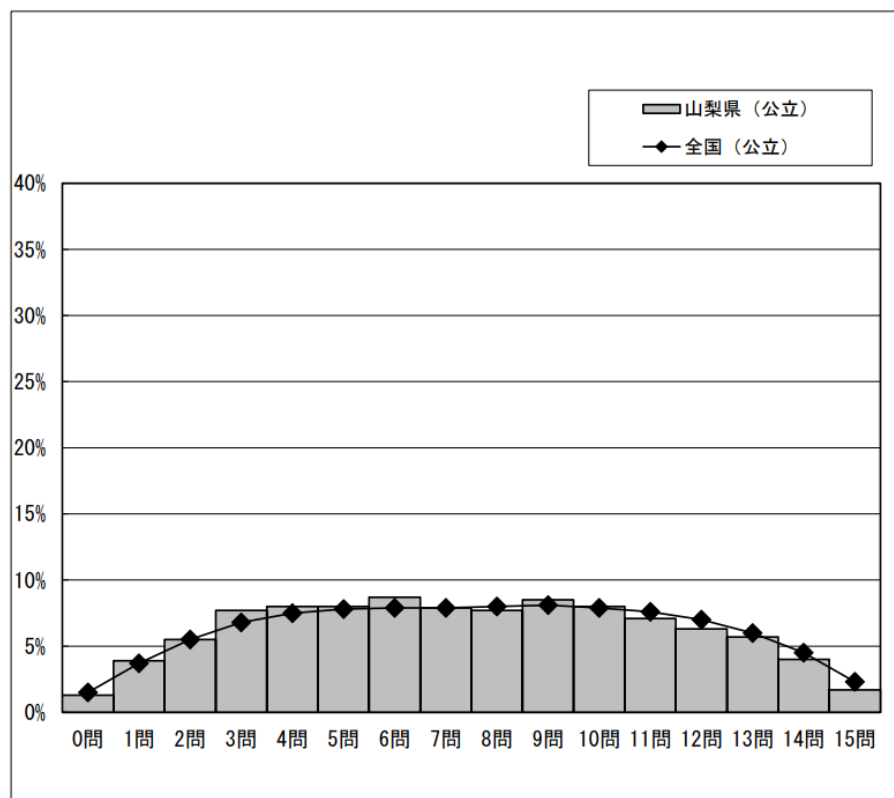
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			山梨県(公立)	全国(公立)	
全体			15	50	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	60.4	63.0	
	B 図形	3	32.1	33.2	
	C 関数	4	50.7	51.2	
	D データの活用	3	48.1	48.5	
評価の観点	知識・技能	10	53.5	55.7	
	思考・判断・表現	5	42.0	41.6	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	42.2	45.3	
	短答式	6	61.0	62.6	
	記述式	5	42.0	41.6	

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



## 正答数集計値・分布グラフ

正答数	正答数集計値		
	生徒数		割合(%)
	山梨県(公立)	山梨県(公立)	全国(公立)
15問	97	1.7	2.3
14問	231	4.0	4.5
13問	329	5.7	6.0
12問	361	6.3	7.0
11問	406	7.1	7.6
10問	457	8.0	7.9
9問	490	8.5	8.1
8問	441	7.7	8.0
7問	450	7.9	7.9
6問	498	8.7	7.9
5問	457	8.0	7.8
4問	458	8.0	7.5
3問	442	7.7	6.8
2問	314	5.5	5.5
1問	225	3.9	3.7
0問	76	1.3	1.5



## 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
		A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	山梨県(公立)	全国(公立)	山梨県(公立)	全国(公立)
1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	$\frac{1(1)}{7(7)}$				○			○			38.1	46.1	0.1	0.1
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	$\frac{2(1)}{7(7)}$				○			○			80.3	80.5	3.7	4.0
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ		$\frac{1(2)}{7(7)}$			○			○			28.2	30.4	1.0	0.8
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ			$\frac{1(1)}{7(4)}$		○			○			41.8	42.8	0.5	0.5
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める				$\frac{1(1)}{7(7)}$	○			○			44.3	46.1	10.9	11.0
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	$\frac{1(1)}{7(9)}$				○			○			88.3	88.9	2.0	2.4
6(2)	はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	$\frac{2(1)}{7(4)}$					○			○		56.7	58.8	9.4	10.6
6(3)	はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	$\frac{2(1)}{7(4)}$					○			○		38.3	40.9	22.1	24.7
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める				$\frac{2(1)}{7(7)}$	○			○			61.3	65.7	5.5	5.6
7(2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する				$\frac{2(1)}{7(7)}$		○			○		38.5	33.6	19.5	22.8
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く			$\frac{2(1)}{7(7)}$ $\frac{1(7)}$		○			○			55.8	57.5	7.1	8.6
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ			$\frac{2(1)}{7(4)}$		○			○			60.7	61.7	0.9	1.1
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する			$\frac{2(1)}{7(4)}$			○			○		44.7	42.8	13.3	13.2
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する		$\frac{2(1)}{7(7)}$				○			○		31.9	32.1	22.2	24.7
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く		$\frac{2(2)}{7(4)}$ $\frac{1(7)}$			○				○		36.2	37.0	13.3	14.2

こんな姿を目指したい!!

# データの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を説明できる生徒



## 正答例 7(2)

1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって、2006年～2020年の黄葉日は1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。

## 特徴的な誤答

2006年～2020年の箱ひげ図の箱が右側にあるから。

## ここがつまずき!

箱ひげ図の箱に着目しているが、位置が異なることについての記述が十分でなかったり、2つの箱ひげ図を比較する記述がなかったりすること。

誤答から見える生徒のつまずき!



データの活用  
領域の学習で...

## 日々の学習における改善・充実

前の時間にとった、イチョウの黄葉日のデータがあります。データの特徴を調べるために、どのように整理しますか。

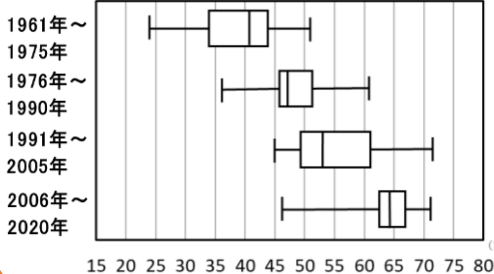
こんな  
問いかけ  
してみませんか?

2006年～2020年の方が、黄葉日が遅くなっている傾向にあることを2つの箱ひげ図の箱に着目して説明してみましょう。

2つの箱ひげ図の箱の位置が違うね。

2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にあるね。

4つのデータがあるから、箱ひげ図をつくってみよう。



「1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱は右側にある。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。」という説明でよさそうだね。

箱ひげ図から、どのようなことが分かりますか。

4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうだね。

でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるけど、遅くなっているといえるのかな。

その2つの箱ひげ図の右端と左端ではなくて、箱に着目してみたらどうかな。

今、「箱」という言葉を使って説明したけれども、この箱ひげ図から読み取れる数値を使って説明することはできないでしょうか。

箱の右端と左端の数値を読み取って比較してみたらどうかな。

「2006年～2020年の方が、第1四分位数も第3四分位数も大きくなっているね。」

「1991年～2005年の第3四分位数よりも2006年～2020年の第1四分位数の方が大きいから」という説明ではどうかな。

箱ひげ図から読み取ったデータの分布の特徴を根拠にして説明し合う場面を設定しよう!

ここが  
POINT



7 イチョウの木の大部分の葉が黄色に変わった最初の日を黄葉日<sup>かようび</sup>といいます。一花さんと啓太さんは、黄葉日が以前と比べるとだんだん遅くなってきている傾向にあることをニュースで知り、二人が住む地域も同じ傾向にあるのが気になりました。そこで、二人が住む地域の黄葉日を調べたところ、1961年から2020年までの60年分の記録がありました。

二人は、黄葉日の傾向を調べるために、各年の黄葉日を9月30日からの経過日数で表すことにしました。このとき、経過日数は10月1日が1日となり、10月31日は31日、11月1日は32日となります。

そして、二人は次のような表にまとめました。

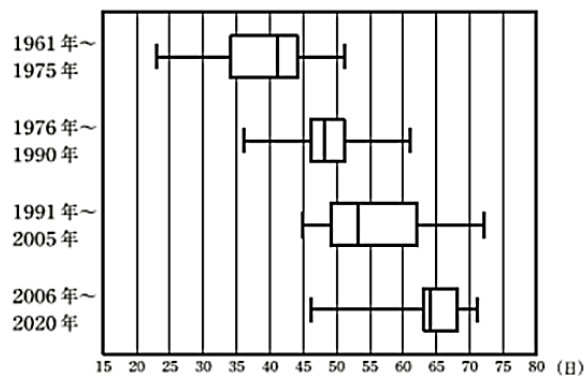
各年の黄葉日

年	黄葉日	経過日数(日)
1961	10月23日	23
1962	11月10日	41
1963	11月10日	41
1964	11月13日	44
1965	11月12日	43
⋮	⋮	⋮
2019	12月10日	71
2020	12月4日	65

二人は、上の表を見て、経過日数が年によって大きくなったり小さくなったりしていることに気づきました。そこで、60年分の経過日数を何年かごとのまとまりで分けて箱ひげ図で表し、それぞれの分布の傾向を比較することにしました。

次のページの黄葉日までの経過日数の分布は、15年ごとのまとまりとして1961年～1975年、1976年～1990年、1991年～2005年、2006年～2020年の4つに分けてまとめたものです。

黄葉日までの経過日数の分布



	経過日数(日)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
1961年～1975年	23	34	41	44	51
1976年～1990年	36	46	48	51	61
1991年～2005年	45	49	53	62	72
2006年～2020年	46	63	64	68	71

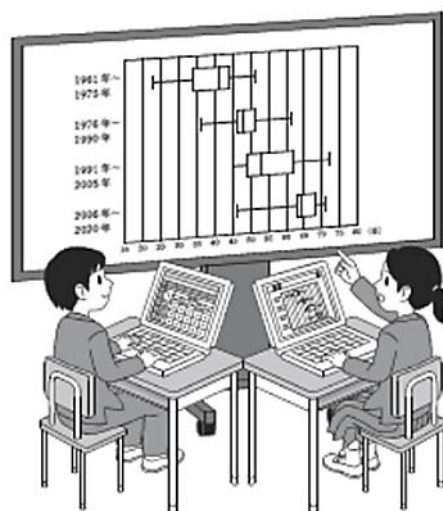
次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 1961年～1975年の四分位範囲を求めなさい。

(2) 二人は、前ページの箱ひげ図を見て、話し合っています。

一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうですね。」  
 啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」  
 一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。



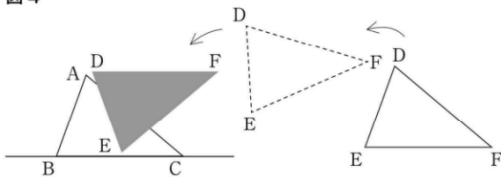
全国学力・学習状況調査 授業改善のポイント（調査問題9）

観察や操作、実験などの活動を通して、図形の性質を見いだすことや、統合的・発展的に考察する場面を設定しよう！

方法2

◇  $\triangle ABC$ を置いて、直線BCをひく。そして、図4のように、 $\triangle DEF$ を回して、点Dを点Aに、点Eを直線BC上に置く。ただし、点Eは点Bと重ならないように置く。

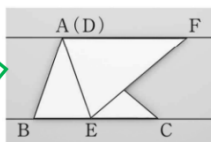
図4



◇ 図5のように、点Aと点Dが重なった点をAとして、直線AFをひく。

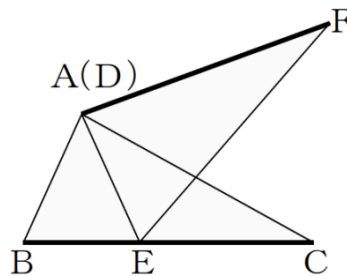
- $\triangle ABC \equiv \triangle DEF$
- $CA=CB$ の二等辺三角形ABC

図5



$\triangle ABC \equiv \triangle DEF$ は変えずに、二等辺三角形でない三角形に変えると、方法2では  $BC \parallel AF$  となりませんでしたね。 $\triangle ABC$ と $\triangle DEF$ が合同でなくてもよいとしたら、平行となることはあるでしょうか。

図8



- $\triangle ABC \equiv \triangle DEF$
- 二等辺三角形ではない



図9

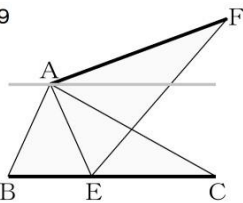


図10

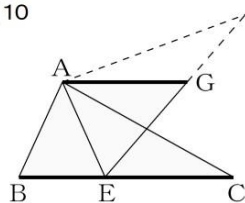


図9のように、BCに平行で点Aを通るような直線をひいてみたよ。



図10のような $\triangle ABC$ と $\triangle AEG$ を考えたら、平行になるのではないかな。

平行になる場合はありそうですね。図10の $\triangle ABC$ と $\triangle AEG$ の2つの三角形にはどんな特徴があるでしょうか。



2つの三角形において、 $AB=AE$ であることは変わらないね。

$\triangle ABE$ は二等辺三角形だから、 $\angle ABE = \angle AEB$ がいえね。

$BC \parallel AG$ になるのは、錯角である $\angle EAG$ と $\angle AEB$ が等しくなっているとことだね。

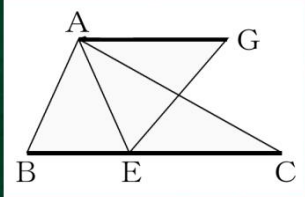
ということは、 $\angle EAG = \angle ABE$ が成り立つから、 $\triangle ABC$ と $\triangle AEG$ において、 $\angle ABC = \angle EAG$ がいえね。



図10の $\triangle ABC$ と $\triangle AEG$ において、 $AB=AE$ 、 $\angle ABC=\angle EAG$ ならば  $BC\parallel AG$ になるといいか確認してみましょう。



$BC\parallel AG$ になることを証明してみましょう。



また、①より、 $\triangle ABE$ は二等辺三角形である。二等辺三角形の底角は等しいから  
 $\angle ABE = \angle AEB \dots ③$   
 $\angle ABE = \angle ABC$ だから、  
 ②、③より、  
 $\angle EAG = \angle AEB$   
 よって、錯角が等しいから  $BC\parallel AG$

仮定より、  
 $AB=AE \dots ①$   
 $\angle ABC = \angle EAG \dots ②$

$\triangle ABC$ と $\triangle AEG$ において、 $AB=AE$ 、 $\angle ABC=\angle EAG$ であれば、平行になる2直線をかきことができることがわかりました。



2つの三角形が合同であり、二等辺三角形でないとき、平行になる2直線をかきことは、やはりできないのでしょうか。



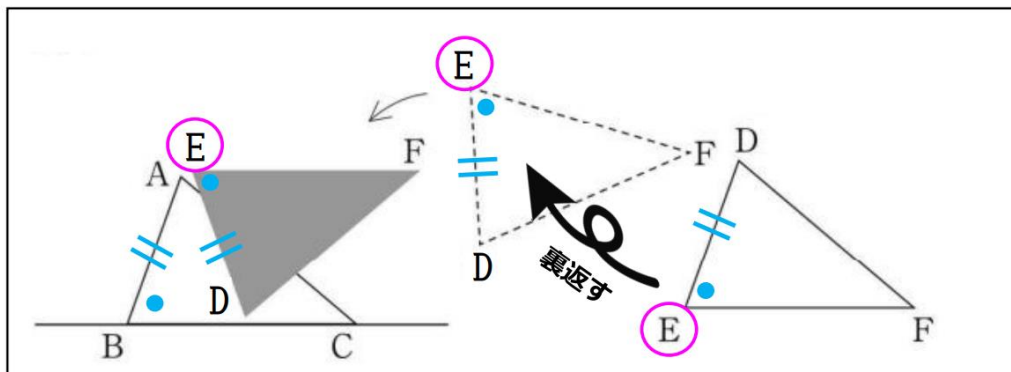
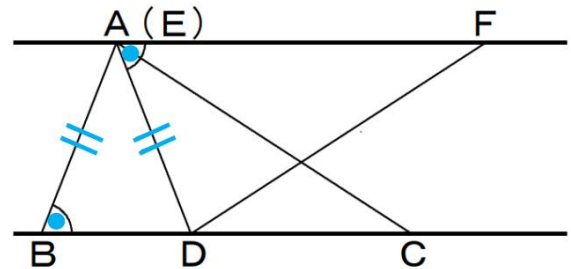
方法2では平行になる2直線はかけないよ。だから、別の方法を考えてみよう。



新たに見つけた方法

2つのうち一方の三角形を裏返せば平行な2直線はかけると思う。使っている条件は、 $AB=AD$ 、 $\angle ABC=\angle DAF$ で同じだ。

2つの三角形が合同であれば、二等辺三角形でなくても図のように平行になる2直線をかきことができる！



# 山梨県学力把握調査 中学校 数学

実施生徒数 (人)	設問数 (問)	県正答率 (%)	全国正答率 (%)	県-全国正答率 (ポイント)
5,569人	31問	52.1	53.4	-1.3

		県正答率 (%)	全国正答率 (%)	県-全国正答率 (ポイント)
領域	数と式	59.7	58.6	1.1
	図形	57.2	60.1	-2.9
	関数	38.4	41.3	-2.9
	データの活用	42.3	44.9	-2.6
観点	知識・技能	57.8	58.9	-1.1
	思考・判断・表現	32.7	34.5	-1.8
	主体的に学習に取り組む態度	37.2	38.6	-1.4
解答形式	選択式	56.1	60.1	-4.0
	短答式	51.0	50.0	1.0
	記述式	35.7	37.0	-1.3

設問別正答率														
通し 番号	解答 形式	観点			領域				問題の内容	出題のねらい	県正 答率 (%)	全国 正答 率 (%)	全国 との 差 (ポ イン ト)	
		知	思	態	数式	図形	関数	デ 活						
1	短答	◎			◎					正の数・負の数	絶対値と数の大小について理解している。	46.1	42.4	3.7
2	短答	◎			◎					正の数・負の数	負の数の減法ができる。	86.6	87.4	-0.8
3	短答	◎			◎						負の数の乗法ができる。	90.7	88.8	1.9
4	短答	◎			◎					文字式	同類項をまとめることができる。	76.4	78.7	-2.3
5	短答	◎			◎						1次式の減法ができる。	71.3	48.8	22.5
6	短答	◎			◎					1次方程式	1次方程式を解くことができる。	72.2	71.8	0.4
7	短答	◎			◎					1次方程式	比例式を解くことができる。	61.7	62.1	-0.4
8	選択	◎		◎	◎					文字式	数量を文字式で表すことができる。	66.1	69.0	-2.9
9	選択	◎		◎	◎						数量の間の関係を不等式に表すことができる。	55.3	57.7	-2.4
10	短答		◎	◎	◎					1次方程式	与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式することができる。	17.9	21.1	-3.2
11	短答	◎		◎				◎		比例・反比例	関数について理解している。	20.6	18.8	1.8

12	選択	◎				◎	比例・反比例	反比例の関係での、 $x$ 、 $y$ の値の変化の関係について理解している。	51.4	56.7	-5.3
13	選択	◎				◎	比例・反比例	反比例の関係の表をもとに、 $x$ 、 $y$ の値から、反比例の式に表すことができる。	41.7	46.7	-5.0
14	短答	◎	◎			◎		比例の式から、比例のグラフをかくことができる。	39.6	45.4	-5.8
15	短答		◎◎			◎	比例・反比例	正方形の辺上を動く点を頂点とする三角形の面積の変化の様子を式に表し、 $y$ の値から $x$ の値を求めることができる。	36.2	36.0	0.2
16	選択	◎				◎	平面図形	回転移動させたときの回転の角の大きさについて理解している。	58.1	60.2	-2.1
17	短答	◎	◎	◎			平面図形	角の二等分線の性質を理解し、折り目の線を作図することができる。	27.0	23.6	3.4
18	短答	◎				◎	空間図形	おうぎ形の面積を求めることができる。	44.3	44.0	0.3
19	選択	◎				◎	空間図形	三角柱の辺のねじれの位置関係について理解している。	78.8	84.1	-5.3
20	選択	◎				◎		直角三角形を回転させたときの回転体について理解している。	85.7	89.9	-4.2
21	選択	◎				◎		四角錐の投影図について理解している。	78.6	82.3	-3.7
22	選択		◎			◎	空間図形	円錐の側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求めることができる。	37.9	41.4	-3.5
23	選択	◎				◎		底面積が等しい円錐と円柱の体積の関係について理解している。	47.3	54.9	-7.6
24	選択	◎				◎	データの分布の傾向	累積相対度数について理解している。	62.5	66.2	-3.7
25	選択	◎				◎		範囲に関する説明の中から正しい文を選ぶことができる。	41.3	47.4	-6.1
26	短答	◎	◎◎				正の数・負の数	目標の数との差を正負の数で表した表から、最大の数と最小の数の差を求めることができる。	30.3	33.1	-2.8
27	記述		◎◎◎					目標の数との差を正負の数で表した表を理解して、7日目でどれだけの花束を作ることができれば、目標の数の花束を作ることができるか判断し、その理由を説明できる。	42.0	42.2	-0.2
28	短答		◎◎			◎	比例・反比例	比例の考え方を利用し、追加で花束を作ったときにかかる時間を求めることができる。	40.9	43.9	-3.0
29	短答	◎	◎			◎	データの分布の傾向	ヒストグラムから階級の幅を読み取ることができる。	53.6	53.8	-0.2
30	選択		◎◎			◎		全体の中での1つの記録の位置を判断するための根拠となる値を選ぶことができる。	24.8	25.3	-0.5
31	記述		◎◎			◎		ある傾向が強いと思われる一方を選び、その理由を2つの相対度数の度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明することができる。	29.4	31.7	-2.3

【観点について】

(知)知識・技能、(思)思考・判断・表現、(態)主体的に学習に取り組む態度

【領域について】

(数式)数と式、(図形)図形、(関数)関数、(デ活)データの活用



成果及び課題が見られる設問は、主に「県正答率」「全国正答率との差」を踏まえて、取り上げています。

### 【成果が見られる設問】

通し番号	県正答率(%)	全国正答率(%)	出題形式	全国正答率との差 (ポイント)
3	90.7	88.8	短答	1.9
問題の内容	正の数・負の数			
出題のねらい	負の数の乗法ができる。			
通し番号	県正答率(%)	全国正答率(%)	出題形式	全国正答率との差 (ポイント)
5	71.3	48.8	短答	22.5
問題の内容	文字式			
出題のねらい	1次式の減法ができる。			
通し番号	県正答率(%)	全国正答率(%)	出題形式	全国正答率との差 (ポイント)
6	72.2	71.8	短答	0.4
問題の内容	1次方程式			
出題のねらい	1次方程式を解くことができる。			

### 【課題が見られる設問】

☆次のページに、通し番号10「1次方程式」の具体的な授業例を提示

通し番号	県正答率(%)	全国正答率(%)	出題形式	全国正答率との差 (ポイント)
10	17.9	21.1	短答	-3.2
問題の内容	1次方程式			
出題のねらい	与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式することができる。			
授業改善の手立て	<p>具体的な場面における問題を1元1次方程式を活用して解決できるようにするためには、以下の①～④のような一連の活動を行うことを通して、方程式を活用し問題を解決する方法を理解できるように指導する必要がある。</p> <p>①求めたい数量に着目して、それを文字で表す。                  ②問題の中の数量やその関係から、2通りに表される数量を見だし、文字を用いた式や数で表す。                  ③それらを等号で結んで方程式をつくり、その方程式を解く。                  ④求めた解を問題に即して解釈し、問題の答えを求める。</p>			
通し番号	県正答率(%)	全国正答率(%)	出題形式	全国正答率との差 (ポイント)
23	47.3	54.9	選択	-7.6
問題の内容	空間図形			
出題のねらい	底面積が等しい円錐と円柱の体積の関係について理解している。			
授業改善の手立て	<p>錐体の体積と柱体の体積の関係を予想し、その予想が正しいかどうかを、錐体の容器に入った水を柱体の容器に移したり、逆に柱体の容器に入った水を錐体の容器に移したりする実験を通して確かめる場面を設定することが考えられる。そのうえで、底面の形が合同で高さも等しい柱体と錐体の体積の関係を捉えられるように指導することが大切である。</p>			
通し番号	県正答率(%)	全国正答率(%)	出題形式	全国正答率との差 (ポイント)
31	29.4	31.7	記述	-2.3
問題の内容	データの分布の傾向			
出題のねらい	ある傾向が強いと思われる一方を選び、その理由を2つの相対度数の度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明することができる。			
授業改善の手立て	<p>代表値の大小比較だけではなく、2つの度数折れ線(度数分布多角形)の形や位置関係にも着目して、それぞれの分布の特徴について話し合う場面を設定することが考えられる。そのうえで、見いだした分布の特徴からある結論を導く際の根拠を明確にし、判断した内容とその理由について説明する活動を取り入れることが大切である。</p>			

こんな姿を  
めざしたい!!

# 具体的な場面における問題を 方程式を利用して解決することができる生徒



## 課題の見られる設問 ⑥

与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式する問題

## 分析と課題

具体的な場面における問題を方程式を利用して解決するための手順について理解していないこと。



全 学年の学習で...

1人1台端末の画面

家から離れた駅に向かって、妹が家を出発しました。兄が妹の忘れ物に気づいて、妹が出発してから15分後に同じ道を自転車で追いかけてきました。妹は分速70m、兄は分速220mで進むとすると、兄が妹に追いつくのは兄が出発してから何分後ですか。

## 日々の学習における改善・充実



妹が駅に着くまでに、兄は妹に追いつくことができるでしょうか。

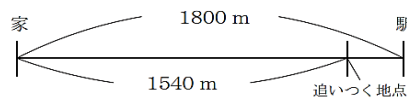
$x=7$  を両辺に代入すると、  
左辺は、 $220 \times 7 = 1540$   
右辺は、 $70 \times (15 + 7) = 1540$   
で両辺の値が等しくなるから、  
解は7で正しいよ。方程式を解いて確かめたのだから、7分後に追いつくはずだよ。

本当に  
そうかな。

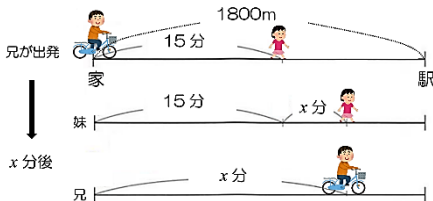


家から駅までの道のりは1800mあるけれども駅に着くまでに追いつくのかな。

兄は  $220 \times 7 = 1540$  で1540m地点に、妹は  $70 \times (15 + 7) = 1540$  で1540m地点にいるよ。2人が進む道のりは、家から駅までの道のり1800mより短いから追いつくことができるよ。



問題にふくまれる数量を図に整理してみよう。

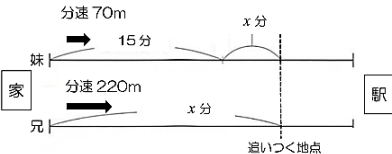


兄が出発してからx分後に妹に追いつくとして、問題にふくまれる数量を表にまとめてみよう。

	妹	兄
速さ	70	220
時間	15+x	x
道のり	$70(15+x)$	$220x$



兄が妹に追いつくとき、妹が進んだ道のりと兄が進んだ道のりが等しくなりそうだ。



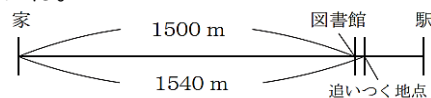
兄が出発してからx分後に妹に追いつくとする。

$$\begin{aligned} 220x &= 70(15+x) \\ 220x &= 1050+70x \\ 150x &= 1050 \\ x &= 7 \end{aligned}$$



もし、家から1500m離れた図書館までだとしたら追いつくことができるかな。

兄は妹に1540m地点で追いつくから、図書館に着くまでには追いつくことができないね。



- ①何を文字で表すかを定める。
- ②数量の間の関係を見つけて、方程式をつくる。
- ③つくった方程式を解く。
- ④方程式の解が問題に適しているか確かめる。

問題解決までの手順をまとめておこう。



方程式を利用して解決するときの考え方や  
手順に着目した学習活動を取り入れよう。

ここが  
POINT

